

# 「創発的研究支援事業」 研究機関による研究環境改善の取組〈好事例〉について

令和5年5月25日

研究振興局 学術研究推進課



**FOREST**  
失敗を恐れない、自由で挑戦的・融合的な研究に挑む。

Fusion Oriented  
REsearch for disruptive  
Science and Technology

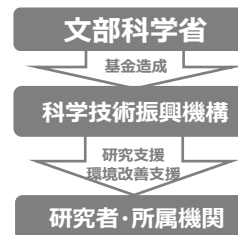
## 事業の概要

**自由で挑戦的・融合的な構想**に、リスクを恐れず挑戦し続ける**独立前後の多様な研究者**を対象に、**最長10年間の安定した研究資金**と、**研究者が研究に専念できる環境の確保**を一体的に支援する。

応募要件：大学等における**独立した／独立が見込まれる研究者**  
 ■ 博士号取得後15年以内（出産・育児等ライフイベント経験者は別途要件緩和）

採択予定件数：**750件程度** 注：令和4年度第2次補正予算により措置（公募回数は調整中）  
 [参考：これまでに実施した3回の公募により、774件を採択]

【事業スキーム】



## 特徴

**研究資金と研究環境の一体的な支援**のもと、**挑戦的な研究を「創発の場」を形成しつつ強力に推進**

**(700万円/年(平均)+間接経費) × 7年間(最長10年間) の長期的な研究資金**

- 研究の進捗や研究者の環境等に応じ機動的に運用。
- **バイアウト制度**(研究以外の業務の代行に係る経費を支出可能)のほか、研究代表者の人件費(**PI人件費**)を支出できる仕組みを先行的に導入。
- 研究開始から3年目、7年目にステージゲート審査を設け、研究の進捗等を評価。



※は令和5年度予算額（案）で計上。それ以外は、令和4年度第2次補正予算で措置

### 研究環境改善のための追加的な支援

- 採択研究者の研究時間確保など**環境改善に努めた所属機関を追加的に支援し**、取組を引き出す。
- 研究の進捗等に応じた**柔軟な追加支援による研究加速**を図る。(※)



### 「創発の場」の形成

- POによるマネジメントの下、採択研究者同士が互いに**切磋琢磨し相互触発**する場を提供。



**優れた人材の意欲と研究時間を最大化し、研究に専念 ⇒ 破壊的イノベーションにつながる成果へ**

#### ■ 経済財政運営と改革の基本方針2022（令和4年6月7日閣議決定）

**破壊的イノベーションの創出を目指し、初期の失敗を許容し長期に成果を求める研究開発助成制度<sup>165</sup>を推奨する。**

165 ムーンショット型研究開発制度、**創発的研究支援事業**等。

#### ■ 新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画（令和4年6月7日閣議決定）

**初期の失敗を許容し長期に成果を求める研究開発助成制度を奨励**する。具体的には、ムーンショット型研究開発制度、**創発的研究支援事業**をはじめとした複数年度に渡って支援する公募型の研究開発支援について、**初期の失敗を許容しより長期に評価を行う方向で改善・強化**する。

# 募集要項における記述

## 公募に当たっての文部科学大臣メッセージ（抜粋）

文部科学省では、若手を中心とした研究者に、これまでに類をみない最長10年にわたる研究資金と、研究に専念できる環境の整備を一体的に支援する新たな事業を創設しました。（中略）選ばれた研究者が思う存分その能力を発揮できるよう、所属機関が研究環境の整備に努めることを期待するとともに、科学技術振興機構を中心に関係者がきめ細かな支援を行うこととしています。

## 追加研究環境整備支援

各創発研究者のステージゲート審査時期迄に、研究機関が創発研究者に対して実施した研究環境の改善内容を審査し、追加的に当該研究者を取り巻く研究環境改善のための支援の額を、研究機関毎に決定します。

審査の対象となる「積極的かつ秀でた支援」の事例を以下に示します。なお、以下の事例に拘わらず、創発研究者の研究環境改善に資する取り組みについては評価の対象とする予定です。

- 独立支援（定年制ポストの提供、昇進、研究室・スペース確保・拡大、研究室立ち上げ費用など）
- 研究時間の確保に向けた配慮（バイアウト利用、大学事務負担軽減など）
- 研究加速に向けた支援（研究スタートアップ費、学生の配属、研究・事務補佐員の支援、共通設備の優先利用など）
- その他、研究環境改善や研究モチベーション向上に向けた支援

支援は、1 機関あたり最大 5,000 万円/期（各期の審査毎の最大支援額）程度を予定しています。追加研究環境整備支援の額は、創発研究者が研究機関より受けた支援の内容や支援を受けた研究者の数、また当該研究機関を取り巻く研究環境や各研究機関の取り組みなどを総合的に評価し、決定します。

追加研究環境整備支援は、創発研究者を中心とした、若手研究者の研究環境改善を目的とした用途に利用できます。前述の審査で決定され JST から提示する追加研究環境整備支援の上限額の範囲内で、各研究機関で希望する追加研究環境整備支援を JST に申請いただき、審査の上、必要額を支給します。詳細は別途お知らせいたします。

# 創発的研究支援事業における研究環境改善の好事例

## ★ 独立支援



### ○ ポスト確保支援

- ・創発採択を機に昇格（千葉大学・東京大学・神戸大学・鹿児島大学 等）
- ・若手研究者の昇任枠を拡充（熊本大学）
- ・創発採択を機にテニユアのポストに移行（岐阜大学・大阪大学・岡山大学 等）
- ・テニユアトラック審査期間を短縮（広島大学）
- ・所属分野の廃止や、部局で創発研究者の雇用財源を確保できなくなった場合にも本部がその人件費を補填（東京医科歯科大学、名古屋大学）

## ★ 研究時間確保に向けた配慮



### ○ 学内事務の減免

- ・学長・理事等より部局長に対し、創発研究者の学内事務負担の軽減を図るよう指示（千葉大学・長岡技術科学大学・京都大学・大阪大学・岡山大学 等）
- ・創発研究者の事務負担を軽減し研究時間を確保するために事務補佐員の人件費を支給（群馬大学）

## ★ 研究加速に向けた支援



### ○ 人件費支援

- ・創発研究者が雇用するポストクや学術研究支援員の人件費を支給（東京大学・電気通信大学・横浜市立大学・北陸先端科学技術大学院大学  
・大阪公立大学 等）

### ○ 研究スタートアップ支援

- ・創発研究者にスタートアップ資金を支給（北海道大学・群馬大学・山梨大学・徳島大学・高知工科大学 等）

### ○ 研究スペースの優先的使用や共同設備利用料金減免・利用料支給

- ・創発研究者への研究スペースの優先提供（岐阜大学・豊橋技術科学大学・関西医科大学・徳島大学・小山工業高等専門学校 等）
- ・創発研究者の共用設備利用料を学内規定料金よりも安価に設定/利用料補填（北海道大学・東北大学・東京医科歯科大学・東京工業大学・九州大学 等）

### ○ PI人件費利用時の研究費補填

- ・PI人件費を支出した創発研究者に対し、同額の研究費を支給（芝浦工業大学）

### ○ 学生配属の配慮

- ・学長・理事等より部局長に対し、創発研究者の研究室に学生を配属する際に配慮するよう指示（山形大学）

### ○ URA伴走支援

- ・創発研究者に担当URAを優先的に配置（芝浦工業大学）

※研究機関名は文部科学省 学校コード順に記載

※全学的な取組と部局単位の取組が混在することに留意

# 創発的研究支援事業における研究環境改善の好事例

## ★その他、研究環境改善や研究モチベーション向上に向けた支援

### ○称号の付与

- ・創発研究者に特別の称号を付与（東北大学・山形大学・京都大学・神戸大学 等）

### ○創発研究者同士の交流創出

- ・創発研究者同士や創発研究者及び創発応募予定者等が共同研究や情報交換を行うための資金・場所を提供（筑波大学・電気通信大学・東京工業大学・名古屋大学・熊本大学 等）

### ○学長等執行部との面談機会の創出

- ・創発研究者が学長等執行部に研究環境について直接意見具申できる機会を設定（東京慈恵会医科大学・金沢大学・静岡大学・名古屋市立大学・奈良先端科学技術大学院大学・山口大学・高エネルギー加速器研究機構 等）

### ○創発研究者を含む研究者への研究環境改善のためのアンケート

- ・創発研究者を含む全研究者を対象に研究環境改善のためのアンケートを実施（筑波大学）

※研究機関名は文部科学省 学校コード順に記載  
※全学的な取組と部局単位の取組が混在することに留意



## 創発的研究支援事業

*Fusion Oriented REsearch for disruptive Science and Technology*